通級だより

静岡聴覚特別支援学校
通級指導教室
2022年6月　　NO.3

プールのとき、人工内耳・補聴器はどうしますか？

日に日に暑くなり、プールの季節が近づいてきました。人工内耳・補聴器は水に弱いため、水中やプールサイドには持ち込まず、外して活動することになります。人工内耳・補聴器は、いつ、どこで外し、どのように保管するのかルールを決めておくとよいです。大切なのは、保護者・学校・本人でルールを確認することです。また、担任や体育の担当が昨年度と同じであっても、毎年、確認をし合いましょう。人工内耳のアクアプラス（防水カバー）を装着する場合も、誰が、いつ装着するのか明確にしておきます。

プールサイドでは、人工内耳・補聴器を外していますので当然、聞こえにくくなります。指示を出す際は難聴児の近くでする、カードを使ったり旗やサインの合図を決めたりして視覚的に情報を補うなどの対応を話し合っておくと安心です。

プール後に人工内耳・補聴器を付けるときは、髪の毛や耳の周りをしっかり拭いてから…というのは言うまでもありませんね。

ちなみに、宿泊学習のときは…？

学年が上がると、宿泊学習や野外活動の機会が増えます。野外で寝る経験もするかもしれません。学校によっては、カヌー体験をする場合もあるようです。人工内耳・補聴器を外すタイミングはいつか、充電や電池切れのときはどうするか、雨が降ったらどうするか、外した補聴器や人工内耳は誰がどのように保管するか、など決めておくことがたくさんあります。外しているときのコミュニケーション手段についても、確認しておきたいですね。活動内容に応じて、家庭・保護者・本人で人工内耳・補聴器の保管方法や対応を決めておきましょう。

人工内耳・補聴器を外して活動するという不安

プールのときも、宿泊学習や野外活動などの校外学習でも、人工内耳・補聴器を外して活動するということは、本人にとって不安を伴います。人工内耳・補聴器を外しているときに、友達に指示の内容を教えてもらうことで「助かった。」「嬉しかった。」と感じている通級生も多いです。人工内耳・補聴器の紛失、故障への注意はもちろん必要ですが、児童生徒の不安感が少しでも軽減されるよう、本人も含めて対応が考えられるといいですね。

在籍校の先生方へ

多くの小・中学校で、**在籍校訪問・難聴理解授業**をさせていただきました。御多忙の中、御協力いただきありがとうございました。これから訪問させていただく学校についてもよろしくお願いいたします。実施後も、御質問・御相談等ありましたら、通級担当までお気軽に御連絡願います。

6月のスキルちゃん

～伝えるため、伝わるための子ども側の姿勢～

＊自分が話し始めるとき、子どもは見ていますか。

・話し手を見るよう促す。
・見ている子をほめる。
・視覚教材の見せ方を工夫する。
・話の最初に惹きつける内容を持ってくる。
・よそ見やおしゃべりが続くときは、わざと待つ。

話し始めを聞き落とすと、話の全容がわからなくなります。教師は、すべての子どもが注視してから話し始めるよう、心掛けましょう。

豊かなコミュニケーションは、聞いてくれて嬉しい！
伝わると楽しい！という気持ちが原動力になりますね。

＊子どもが話しているとき、他の子どもは話し手を見ていますか。

×後ろにいる聞き手に気づかずに話す。

×出しぬけに話す。

・教師が話し手を見るよう促す。
・教師が話し手の方に身を乗り出し、関心をもたせる。
・子ども自身が注視を促す。「見てください。」
・教師が話している子の後ろに立つ。
・人数が多い場合は、話し合いのルールを作る。
（例　話したいときは挙手、指名されたら話すなど）
・状況によっては、発言者が前に出る。　　等

話し手を見るよう促すことで、傾聴態度を育て、相互読話が円滑にできるようにしていきましょう。

～発音・発語のポイント～
「わかりやすい発音は整った口形から」と言われます。口形を整えることを指導しましょう。そのために、まずは自分の口を鏡に映し、母音三角図と照らし合わせながら「あおうえい」の口形がどのようになっているか確認しましょう。